

平成30年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀市立東与賀小学校		
2 所在地	佐賀市東与賀町大字田中453番地		
3 校長名	梶原 紳一		
4 学級数 児童生徒数	22学級（特別支援学級5含む） 502人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 502人

6 取組のねらい

- ・ 教室環境のユニバーサルデザイン（以下UD）化を図り、全ての児童にとって、学びやすく過ごしやすい環境にする。
- ・ UDの視点を取り入れた授業を意識し、全ての児童にとって分かりやすい授業に改善する。
- ・ 「福祉体験」や「特別の教科道徳」での指導を通して、高齢者や体の不自由な方々など他の人の立場に立って気持ちを考えさせ、思いやりのある言動につなげていくようにする。
- ・ UD出前講座等を通して、年齢、身体的能力などに関係なく、社会には、みんなが生活しやすくするための工夫がされていることに気付かせる。

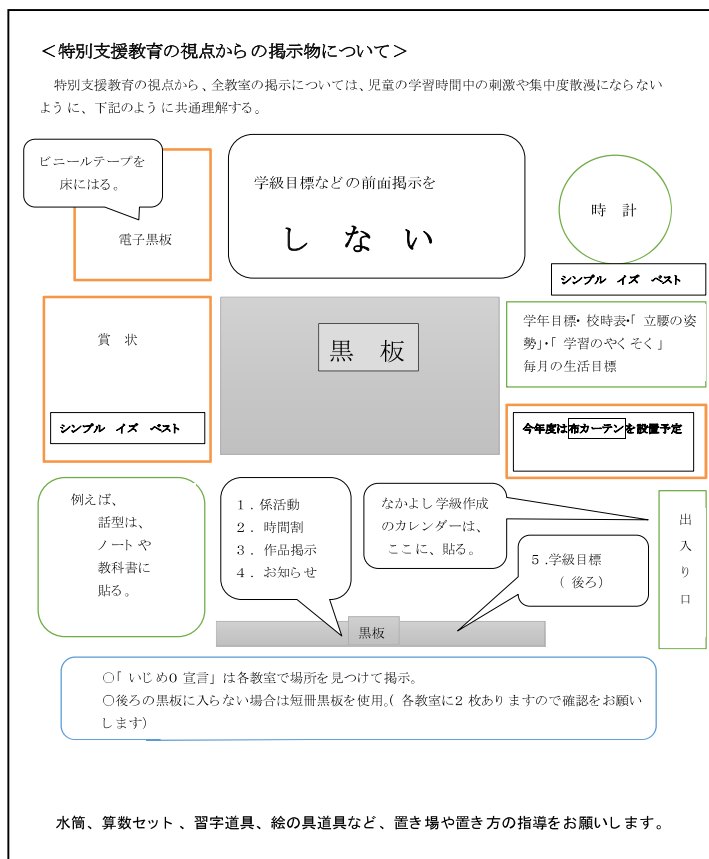
7 取組の実際

（1）教室掲示物のUD化

年度当初の職員会議で、教室掲示物についての共通理解を図った。（右図参照）

前面黑板上に掲示をしないことだけでなく、黑板横の掲示物や掲示物の台紙の色にも配慮して、板書や電子黑板に集中しやすくした。また、背面黑板の使い方も共通理解することで、たてわり班等で、自分の学級ではない教室に行った時も、違和感なく過ごすことができるようにした。

さらに、全児童が分かりやすいように、児童への指示は口頭だけでなく、カードを提示する工夫もした。



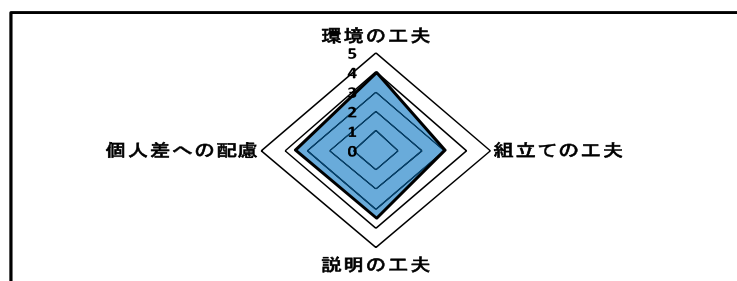
(2) UDの視点を取り入れた授業

佐賀県教育センター作成（H26年度）の「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業のためのチェックシート」を活用し、定期的に授業の自己評価をすることに取り組んだ。

「ユニバーサルデザイン」の視点を取り入れた授業のためのチェックシート

このチェックシートは、本センターにおけるこれまでの研究内容を基に「ユニバーサルデザイン」の視点を4つ設けて、授業におけるそれらの視点に応じた支援の状況を授業者が把握することができるように作成しました。どのような視点に応じた支援を取り入れると、全ての児童生徒が分かりやすい授業につながるのかを考えることができます。ここに挙げている項目が支援例の全てではありません。4つの視点に応じた支援例も作成していますので、活用してください。

環境の工夫	1	教室の教材や掲示物、連絡事項等の配置を意図的に行っている。	○
	2	授業で使う黒板には、授業に必要な連絡事項等を書かないようにしている。	○
	3	学習用具の管理（整頓や忘れ物、ワークシートの保管等）についての指導を工夫している。	—
	4	課題の提出についての指導を工夫している。	○
	5	発表や話し合いの仕方等、授業のルールを決めている。	○
組立ての工夫	6	「導入—展開—まとめ」等のように、基本となる授業の流れを決めて取り組んでいる。	○
	7	授業の導入の段階で、その授業の学習内容や学習活動の流れを示している。	—
	8	授業の導入の段階で、本時の目標（めあて）を明確にしている。	○
	9	説明を聞くだけでなく、個人やペア、グループで取り組む活動等を取り入れる。	○
	10	授業のまとめの段階で、学習した内容を振り返らせている。	—
説明の工夫	11	スピードや抑揚を意識して話している。	○
	12	指示語や曖昧な言葉を使わないようにして話すようにしている。	—
	13	話す内容の要点をおさえて、短い言葉で説明している。	○
	14	児童生徒の活動中に指示や説明を行わないようにしている。	—
	15	「1つ目は～、2つ目は～」等のように、話す内容を列挙しながら説明している。	○
	16	児童生徒の注意を引き付けてから説明するようにしている。	○
	17	言葉だけではなく、具体物や図、写真等を用い、視覚的に提示している。	—
	18	板書の書式を決めておいたり、チョークの色を意図的に使い分けたりしている。	○
	19	学習の流れに沿った板書にしている。	○
	20	説明する内容を分かりやすくするために、ICT機器を活用している。	○
個人差への配慮	21	つまづきが予想される児童生徒を意識して授業の準備を行っている。	○
	22	つまづきのある児童生徒の様子や関わり方等について、教師間で情報交換している。	○
	23	学級全体への説明だけでは理解することが難しい児童生徒に、机間指導等で個別に対応している。	○
	24	書くことが苦手な児童生徒に、ワークシートを用いたり、板書の要点だけを書き写させたりして、書く量を調整している。	—
	25	読むことが苦手な児童生徒のために、漢字の振り仮名や英単語の読み方を書いている。	—
	26	話すことが苦手な児童生徒に、事前に話す内容を書かせておいたり、本人が答えやすい質問をしたりしている。	○
	27	注意の持続が難しい児童生徒に、説明や指示をする前に、呼名したり、言葉掛けをしたりして注意を引き付けるようにしている。	○
	28	注意の持続が難しい児童生徒のために、望ましい行動や発言に対して称賛している。	○
	29	習熟度や人間関係、視力等、児童生徒の実態に配慮した座席配置やグループ編成をしている。	○
	30	児童生徒の興味・関心や習熟度等に合わせて活動や課題の内容を複数用意して、選択できるようにしている。	—



授業における「ユニバーサルデザイン」の4つの視点に応じたこれまでの支援の状況は左図の通りです。
 視点ごとの支援例や授業実践を紹介していますので、活用してください。
 チェックシートを定期的に変更することで、「ユニバーサルデザイン」の視点を意識した授業づくりに継続的に取り組んでいくことができると考えます。

このような取組をすることにより、自分の授業の改善点を見出し、全ての児童にとって分かりやすい授業にしていくことを目指した。

(3) UD の考え方の理解と交流活動

①UD 出前講座

9月7日(金)に、県民協働課ユニバーサルデザイン社会推進担当の方を講師として招聘し、3年生で「UD 出前講座」を実施した。



児童の気付き・感想より

- ・ユニバーサルデザインは、町を明るくすることが分かった。また、シャンプーの上はぎざぎざしていること、牛にゆうパックの上にはへこみがあって、ジュースのパックとちがうので分かりやすいことなどに気づいた。
- ・自動はんばいきは、お金を入れるところがくふうされていた。
- ・カレーの皿には、半分に線があり、白い方にはカレーのルー、赤い方にはご飯を入れると分かりやすいことを知った。

UD の基本的な考え方や身の回りにある UD の紹介等を、具体物を紹介しながら分かりやすく話していただいた。その後、UD についての調べ学習をし、総合的な学習の時間の中で UD 新聞にまとめ、相互交流をすることができた。

②福祉体験

10月23日(火)に、東与賀町のボランティア団体「クローバーの会」の方を講師として招聘し、3年生で車椅子体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験を実施し、他の人の立場の方になって考える活動をさせた。

車椅子体験



アイマスク体験



高齢者疑似体験



<体験後の児童の感想より>

- ・車いす体験では、車いすに乗ったとき、マットに車いすをあげる体験がこわかった。車いすのたたみ方は、かんたんだった。
- ・アイマスク体験は、暗くてこわかったし、不安でした。でもクローバーの会の方から、教えてもらったので安心した。助けてくれる人にもうとこんなうれしいんだと思った。
- ・高齢者疑似体験では、豆つまみをしたり、ペットボトルのふたをあけて水を飲んだりしました。とってもむずかしかったです。でも、高れい者の方の気持ちを感じることができてよかったです。
- ・高齢者疑似体験では、重い道具をいっぱいつけて動いてみた。階だんをおりるときがすごくむずかしかった。おもりをつけると、体が重く、足を上げるときもあげにくかった。

③高齢者施設での交流活動

11月30日（金）に、3年生が学校近くの高齢者施設「紀水苑」を訪問して、高齢者とのふれあい交流活動に取り組んだ。高齢者、児童共々、優しい笑顔と温かい雰囲気の中で、交流活動をすることができた。

④「特別の教科道德」と関連させた体験学習

本校では、児童の体験学習と「特別の教科道德」との関連を大切にしながら、学習を進めている。UD教育については、3年生でUDの考え方を学び、様々な福祉体験に取り組んだ後、3年生～6年生における「道德の年間指導計画」にある「親切・思いやり」の題材の中で少しずつ取り上げ、考えさせる授業をしている。今年度は、その発展学習として、6年生で自主学習や冬休みの課題として、UDについての調べ学習に取り組ませ、ポスターや壁新聞などにまとめることができた。

8 取組の成果と課題

○成果

- ・ 教師自身がUD教育について学び、全職員共通理解をして、教室環境のUD化を図ることにより、全ての児童にとって、学びやすく過ごしやすい環境にすることができた。
- ・ UDの視点を取り入れた授業づくりを考えることにより、児童にとって分かりやすい授業に改善できつつある。
- ・ 学校全体の教育活動の中で、計画的に「福祉体験」や「特別の教科道德」に取り組むことにより、発達段階に応じて高齢者や体の不自由な方々など他の人の立場に立って考えさせることができた。
- ・ UD出前講座や地域のボランティア団体、保護者の協力を得たことにより、より楽しく学ばせる体験にすることができ、社会にはみんなが生活しやすくするための工夫がされていることに気付かせることができた。

○課題

- ・ UDの視点を取り入れた授業づくりが、全教科でできているわけではない。今後も、教師自身のUD教育に対する認識を深め、実践化していきたい。
- ・ 体験活動が児童の言動へとつながり、思いやりのある社会を形成する一員となるように、今後も工夫を重ね、継続的な実践をしたいと考える。